

2017-18年度ライオン誌日本語版委員会 第1回会議 報告書

日 時：2017年7月26日(水) 13:30～16:45

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：国際理事 中村 泰久 (埼玉県・大宮北ライオンズクラブ)
国際理事 佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)
元国際理事 佐藤 宜之 (大分ライオンズクラブ)

議長連絡会議世話人 山田 正昭 (331複合地区／北海道・釧路ぬさまいライオンズクラブ)

17-18年度委員 久津間康允 (330複合地区／神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ)
17-18年度委員 佐々木忠康 (331複合地区／北海道・小樽ライオンズクラブ)
17-18年度委員 稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ)
17-18年度委員 渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)
17-18年度委員 西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)
17-18年度委員 神 崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)
17-18年度委員 矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)
17-18年度委員 小柴 登司 (337複合地区／沖縄県・浦添ウエストライオンズクラブ)

16-17年度委員 佐藤 義則 (332複合地区／宮城県・蔵王ライオンズクラブ)
16-17年度委員 石井 博之 (334複合地区／三重県・津中央ライオンズクラブ)

ITアドバイザー 莊 英 隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)
ITアドバイザー 辰巳 博昭 (兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ)

事務所長 井 出 孝 (神奈川県・平塚ライオンズクラブ)

欠席者：16-17年度委員 中村 房雄 (335複合地区／大阪府・泉大津ライオンズクラブ)



第1回会議開催に当たり、会議の招集者である山田正昭八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議世話人から開会あいさつがあり、ライオン誌デジタル化という新しい時代を迎える中、ライオン誌委員会にはそのかじ取り役が期待されていると話された。その後、会議出席者の自己紹介が行われ、続いて中村泰久、佐藤義雄両国際理事、及び佐藤宜之元国際理事からあいさつがあった。中村理事は九州北部豪雨災害被災地の視察と支援活動について報告され、佐藤理事はライオン誌は貴重な情報源として読んでもらえる誌面作りに取り組んでほしいと話された。また、佐藤元国際理事は国際協会は次々と新しい方向性を打ち出し、ややもすると単一クラブから乖離しているきらいもあるが、最も大切なのはメンバーのためという視点であり、ライオン誌もその大前提を忘れず誌面作りにあたってほしいと述べられた。続いて、2016-17年度の石井博之委員長と佐藤義則編集長の進行で議事に入った。

【議事】

1. 2017年8月号(7月21日見本／92,100部発行)出来

第1回会議に当たり、国際協会配信記事などの誌面編成も含め8月号の説明があり、出来に

ついて委員から意見を求めた。特集は「100周年記念シカゴ国際大会」、「国際理事だより：中村泰久国際理事」、「編集室：小柴登司委員」。この号で、新国際会長テーマ、新国際会長プロフィール、新国際理事抱負など新年度関連記事を中心に上げると共に、安井克之、佐藤宜之両国際理事の活動報告を掲載した。神崎委員から、国際協会指定記事については、その旨を明記した方が、読者の関心を引くのではないかとの指摘があり、各委員からも賛同があったことから次号以降「国際協会指定記事」のクレジットを入れることになった。

2. 2016-17年度ライオン誌日本語版ベスト・エッセー賞

獅子吼に投稿された原稿の中から、優れた作品を表彰するライオン誌日本語版ベスト・エッセー賞の選考を行い、2016-17年度の投稿から3作品を選んだ。ライオン誌月間に当たる9月号で、この結果を紹介する。

3. 2016-17年度委員会からの申し送り事項

- ①eMMR ServannAとMyLCIの連携：前年度発足したMyLCI移行チームの日本側責任者だった佐藤元国際理事から、これまでの経過と現状について説明があった。更に国際本部では現在、MyLCIとライオンズ専用アプリMyLionの連携も視野に入れているようで、出来るだけ早い段階で本部に今後のスケジュールを確認するよう事務局に指示があった。
- ②ライオン誌デジタル化について、これまでの経緯と前年度委員会で決定した方向性並びに新年度委員会として取り組むべき課題について、佐藤前編集長から説明があった。
- ③前年度、デジタル化の方針決定後に委員会で作成し、一般社団法人日本ライオンズ理事会で承認された2017-18年度予算案について佐藤前編集長から説明があった。2018年1月以降デジタル化が推進され、公式版ライオン誌への国際協会補助金が会員1人当たり年間6ドルから4ドルに減額されることに伴い、上半期の補助金は会員1人当たり3ドル、下半期は2ドルで計算していること、またライオン誌としての予算を組むためには、日本ライオンズ会費として一本化された旧日本ライオンズ連絡事務所費30円とライオン誌特別負担金50円の内訳を認識して頂く必要があることが強調された。また支出については、上半期は月刊、下半期は隔月刊となる本誌の費用と、2018年以降リニューアルしてデジタル化を促進するウェブマガジンの費用について説明された。なお、予算案作成の段階では、ウェブマガジンのコンテンツ案が決まっていなかったため、本誌とウェブマガジンの取材バランス等も確定しておらず、執行額については今年度委員会で精査した上で、日本ライオンズ理事会にも報告していく。
- ④ライオン誌日本語版委員会規程、及びライオン誌日本語版委員会方針は、一般社団法人日本ライオンズの設立や、2018年からの発行体制変更に伴い見直しの必要があり、新年度委員会で具体的な改正案を策定して頂くよう申し送りがあった。

4. 2017-18年度ライオン誌日本語版委員会委員長、編集長互選

委員長に331複合地区の佐々木忠康委員、編集長に336複合地区の矢野敏明委員が選出された。

新年度人事の決定後、退任する2016-17年度の石井委員長と佐藤編集長から退任のあいさつ、また新任の2017-18年度佐々木委員長、矢野編集長から就任のあいさつがあり、その後、矢野編集長の進行で議事を再開した。

5. 2017年9月号記事内容の確認

当日配布された9月号校正を基に、記事の内容を検討した。特集は「子どもたちの未来」で、フードバンクにいがたの運営委員を務めるL斎藤信夫（新潟県・にいがた水都LC）、及び岩手県・盛岡観武LCが月2回実施しているこども食堂のルポで誌面を構成し、子どもたちを取り巻く社会の実態を探る。「国際理事だより：佐藤義雄国際理事」、「編集室：矢野敏明編集長」。九州北部を襲った記録的な豪雨による被災地支援活動については被害が大きかった福岡県朝倉市取材し、地元朝倉LCの被災状況と積極的な支援活動を中心に紹介する。また、シカゴ国際大会前に開催された地区ガバナー・エレクト・セミナーについて、城阪勝喜グループ・リーダーから記事掲載の依頼があり、1ページを取って参加者からのレポートを中心に紹介する。8月2日に開催される日本ライオンズGAT運営会議の取材を鈴木誓男GAT統括リーダーから依頼され、佐々木委員長が取材を担当することが報告された。これに関連して佐々木委員長から、今年度は出来るだけ取材地近くの委員も取材に出てほしいこと、それについては取材の可否判断や出張に伴う事務手続き、保険の有無などクリアすべき点があるため、次回会議までに各自検討しておくことが要請された。なお8月号に掲載した、ライオン誌日本語版の2018年以降の方向性について説明する記事は当面掲載を継続し、周知徹底を図ることとする。

6. 2017年10月号台割(案)及び2017-18年度主要記事予定

2017年10月号の台割案が提出された。

10月号は「特集：ライオンズクラブ統計」で、世界と日本のライオンズの動静、アクティビティの傾向などに関する統計資料でまとめる。「国際理事だより：中村泰久国際理事」、「編集室：神崎守委員」。

主要記事予定で、編集室の執筆順を確認後、11月の特集企画について検討した。第1回会議ということから、編集部案として2案が提出され、そのうち「環境（気候変動）」について検討を行った。編集部案では、シカゴ国際大会で行われたアル・ゴア元アメリカ副大統領の講演を基調原稿に、日本国内の課題や最新情報を掲載することが提案された。シカゴ国際大会に参加された委員からは、ゴア副大統領の講演に賛否両方の意見があり、またゴア氏の主張は日本の感覚では理解が難しいものもあり、そのまま掲載することを危惧する意見もあった。そこで、ゴア氏の講演は一つの素材として使用し、もっと身近な環境問題や、ライオンズクラブの活動事例などを含めて取り上げていくこととする。

9月に開催されるボブ・コーリューLCIF理事長セミナーと九州北部豪雨災害被災地視察について、中村理事から取材要請があり受諾、11月号に掲載する。

2018年以降、本誌の印刷が隔月になるのに伴い検討が必要な事項が提出され、次回以降の委員会で具体的に検討していくことになった。

7. ライオン誌ウェブマガジン

- 前年度委員会で方向性が決まった2018年以降のライオン誌ウェブマガジンのコンテンツ案とデザイン案が提出された。現在使用しているシステムXoopsからWordpressへ移行し、データベースの構築とサイト・リニューアルを外注するに当たり、前回会議で残った2社と委員推薦の1社の見積を比較して、まずは基本ページの構築を中心としたリニューアル案の会社に発注し、トップページを始めベースとなるページを作成した上で、必要なプログラムを追加していくこととする。
- ウェブマガジンの新コンテンツとして計画されている動画製作に関し、撮影機材と編集

機材の見積が提出され、購入が承認された。

8. その他

- WiFiルーターが故障したため、購入予定機器の見積もりが提出され、購入が承認された。なお、同じく故障したポストスクリプト・プリンタについては、新規購入は止め出力サービスを利用することとする。
- 事前資料として送付されたライオン誌サポーター・アンケートの内容を確認した。
- 新年度のサポーター制度について討議した。基本的にはこれまで同様、各地区1人ずつサポーターを推薦して頂くよう地区ガバナーに要請する。また、前年度委員にサポーターをお願いすると共に、各委員においてもサポーター推薦に協力する。

閉会あいさつ 佐々木忠康委員長

【次回以降委員会開催予定】

9月4日(月) 13:30~16:30 第2回会議 日本ライオンズ事務所